

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

米国大統領選で大方の予測を裏切りトランプ候補が勝利したことで相場の大きな流れが変わったようです。

当初は「トランプ・ショック」で101円20銭までドル安が進んだものの、その後はトランプ次期大統領の掲げる大型減税や財政出動・規制緩和といった政策に対する期待が高まり、米国株は新高値を更新、米長期金利は急上昇し、ドルも全面高となって「トランプ・ラリー」に変化しました。

【ドル/円 週足】



12月1日には、OPEC総会での減産合意を受けた原油高・株高・米国債利回り上昇を背景に今年2月以来となる114円83銭まで上昇し、大統領戦後わずか3週間強で上昇率は13%を超えるものとなりました。

この上昇により年初から続いてきたドル安・円高は終了したことが確認されたといえるでしょう。注目していた長期の趨勢を占う52週移動平均もクリアーに上抜けてきており、当面ドルの下値は限られたものとなりそうです。

この急激なドルの上昇は積み上がった円ロングポジションの巻き戻しによるものでしたが、12月に入り急速に円ショートポジションが積み上がりつつあります。

市場センチメントが明確にドル買い・円売りに傾いているのであれば、ドルの上昇余地は小さくはなく、年初の水準である120円を試していく可能性も高まってくるものと思われます。

ドル/円相場のトレード戦略

■ 短期展望

先週は、クリスマス休暇を控えて模様眺めムードが強まる中、ポジション調整のドル売りもありドルの上値の重い動きとなりました。

もともと、ドルを買い遅れている市場参加者も多く、押し目買い意欲も強いため、下値も限られたものとなり 117 円を中心としたレンジ相場を形成しています。

今週は、クリスマス休暇を終えて海外勢が積極的に取引に参加してくる可能性が高く、118 円台をしっかりと上抜けることが出来れば 120 円が視野に入ってきます。

下値では 116 円台で短期投機筋のストップロスのドル売りがあるとの指摘もありますが、ドルの先高感が強く、仮にストップロスが発動しても押し目は浅いものに止まりそうです。